西洋史特殊講義2B－Ⅰ

科目ナンバリング　HEA-203
選択必修　　2単位

工藤　則光

1. 授業の概要（ねらい）

前期はヴァロワ朝及びその分家が興したヴァロワ＝アングレーム朝フランス王国史を縦軸として、先ず百年戦争直後のフランス史を概観し、次いでイタリア戦争（1494～1559年）の歴史を中心に、特に同時期に誕生した次の4人に焦点を合わせて、講義する。つまり、ヴァロワ＝アングレーム朝フランスのフラソワ1世、テューダ朝イングランドのヘンリ8世、ハープスブルク朝（アブスブルゴ朝）神聖ローマ帝国及びスペインのカール5世（カルロス1世）、オスマン帝国（オスマン朝）のスレイマン1世である。
◎第14回はLMS講義の予定である。
※英語を学ぶだけで大変（だった）かもしれないが、西洋史コースの学生には英語以外の言語をぜひ学んでもらいたい。また、東洋史や日本近現代史で卒業論文を書く学生も英語以外の言語にチャレンジすべきである。本学では「国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ」としてフランス語（仏語）、ドイツ語（独語）、スペイン語（西語）、ロシア語（露語）を、外国語学部設置のオープン科目として「選択イタリア語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「選択イタリア語中級Ⅰ・Ⅱ」、「選択イタリア語上級Ⅰ・Ⅱ」が開設されている。ただし、どの言語もⅠから順番に履修し単位を取得する必要がある。

2. 授業の到達目標

①　西洋前近代史について基本的知識を獲得すること。
②　世の中の動きを歴史的に考えるための視点を身につけること。
③　西洋史を日本語だけでなく最低限英語で読んで考えることが重要であるということを認識する

3. 成績評価の方法および基準

受講者数にもよるが、原則小リポート・小テスト・授業への積極的参加など40%と期末テスト60%で評価する。
①　小リポートは基本的に講義中に提出するリアクション・ペーパーを指し、受講者数にもよるが、原則毎回実施する。
②　期末テストは定期試験期間に行われることもある。
③　英語で書かれた史料をていじすることもあるが、原書購読ではないので、英語力自体は成績に反映させない。
◎遅刻は原則2回で1回の欠席とする。

4. 教科書・参考文献

教科書
使用しない。
参考文献
フランチェスコ・グイッチァルディーニ著　『イタリア史』全9巻　太陽出版
ルネ・ゲルダン著　『フランソワ一世―フランス・ルネサンスの王』　国書刊行会
指昭博編著　『ヘンリ8世の迷宮―イギリスのルネサンス君主』
瀬原義生著　『皇帝カール五世とその時代』　文理閣
アンドレ・クロー著　『スレイマン大帝とその時代』　法政大学出版会

5. 準備学修の内容

①　講義で扱う時期の、特に政治史は日本語で読むことができる本が少ないので、政治史を中心に大量のプリントを配布するので、事前によく読んでおくこと。
②　関連する参考文献・論文が多いので、適宜紹介する。そうした文献・論文以外に授業内容の理解を深めることができる教材を紹介するので、事前に読んだり、見たりするとよい。また、現在日本や世界で起きていることに関心を持つこと。最低限一日1回はニュースをチェックして動向なりを押さえておくこと。この授業とは直接関係ないかもしれないが、色々な意味で過去と現在はつながっているので、意外に驚くこともあるだろう。
③　日本史または東洋史を専攻する教職志望者は世界史Bの教科書の該当部分を今一度読んでおくこと。

6. その他履修上の注意事項

①　英文を提示されたなら、事前に日本語訳をする努力をしてもらいたい。
②　卒論は文庫や新書だけを読んで書くことができないので、早い時期から専門書および専門論文を読んで、読書が苦にならないようにすること。
③　西洋史コース以外の学生の履修を認めるが、扱う内容は高校教科世界史Bにおいて全く取り上げられていない事項などが多いので、それなりの覚悟をもって受講すること。
④　西洋史や東洋史、日本近現代史を志すなら、英語のリーディング力を高める努力をすること。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス：1.授業の進め方、評価方法など、2.その他
はじめに
Ⅰ.百年戦争からの回復と「フランス国民の国家」出現
1.前史：百年戦争
【第2回】　2.ルイ11世慎重王治世期
【第3回】　3.イタリア戦争以前のシャルル8世治世期
【第4回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史①
【第5回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史②
【第6回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史③
【第7回】　特論：ルイ12世慈父王
【第8回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史④
【第9回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史⑤
【第10回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史⑥
【第11回】　特論：フランソワ1世
【第12回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史
【第13回】　Ⅱ.イタリア戦争史：通史

【第14回】　補論・課題図書・動画についての説明
◎LMSによる講義
【第15回】　まとめとテスト